

2008年

10月4日（土曜日） - 観光力の活かしあい、高めあい -

昨日、国土交通省観光庁から「観光圏」整備実施計画の対象地域として全国16地域、近畿では2地域の一つに「丹後観光圏」（京丹後市はじめ3市2町）が選定されたと発表されました。観光庁では、観光立国の実現に向けて、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を促進するため、本年度新たに制定された「観光圏の整備による観光客の来訪及び滞在の促進に関する法律」に基づき、複数の観光地が連携して2泊3日以上滞在型観光を目指す「観光圏」の形成を促進する※こととしていますが、今般、法施行後初めての全国的な地域選定の中で選ばれたものであり、今後の丹後の観光振興を展望する上でとても喜ばしく、京都府など関係者の皆様のご尽力に感謝を申し上げます。

京丹後市においては、観光産業は地域を支えていただいている一大産業であり、主に広い温泉地域を中心とした、夏期の海水浴、冬期のカニはじめ食の観光を特色としていますが、丹後6町の合併・京丹後市の誕生を受け規模の利益と地域の特色を活かし、ますますの観光振興が求められています。そんな中、本年4月に旧6町の観光協会が合併し京丹後市観光協会が発足し、広く旧6町に存在する海、山、農林水産、古代歴史、織物・ものづくり、健康など、多様な観光・交流資源を体系的に連携させて、オールシーズンを通じた体験型、滞在型の観光・交流を総合的に推進していく取組みを本格的に開始したところです。

今回の「丹後観光圏」の選定は、このような本市における体験型、滞在型の観光を促進していく上で支援策の本格化や気運の醸成など大きな推進力となりますとともに、他方で、近隣の丹後の2市2町の様々な素晴らしい観光地域との本格的な連携を促進するものであります。今大切なことは、隣接する観光地との連携は、近接しているがゆえにライバルでもあると同時に、連携協力して相互に活かされ合うことでより大きな魅力を形成することができるパートナーでもあるということです。昨今、日本全国で観光地間の競い合いが盛んになっていますが、そんな中で丹後の魅力を広く全国や世界の皆さんに届けていくためには、市域町域を越えて自然環境、歴史・産業資源など実に多様な丹後全体の観光資源・観光地域が相互に活かしあい連携を進め、これにより地域単独の持ち味が互いに活かされあい地域全体の魅力として一体的に高められる、そんな分厚い観光力の充実が欠かせません。

丹後の資源は、現代社会が時代的にいよいよと求める環境、健康、いやしなどの価値、恵みの原石を豊かに有しています。そしていつも忘れてはならないのは、何ととっても、丹後に来ていただくご縁をいただいたそれぞれの皆様を心からお迎えする"おもてなしのこころ"と"ありがとうのこころ"こそであります。そして今回の丹後観光圏でとりわけ大切でありますのは、これにより各観光地間のおもてなしとありがとうの心のつなが

りと連携がすすめられること、丹後ひとつながりの心のつながりの中でおもてなしの味わいの深まりが導かれることではないかと思っています。

丹後を通じる各地各地のそんな心からの"おもてなしとありがとうのこころ"と各地の数々の魅力が結び合い、ほんまもんのゆったりほっこりいやしの活力を心から堪能していただけますよう、今回の丹後観光圏の選定を喜びながら丹後各地の関係者の皆さんと今後ますます力と心を合わせて励んでまいりたいと思っています。

※ 観光圏整備の支援メニューとしては、①滞在促進につながる事業への補助金、②設備投資への財政投融资、③関係法令の手続き緩和、特例など。